

## 1 目的

近年消費者の健康志向から脂肪の少ない赤肉への志向が強くなってきており、経産牛肉が見直されつつある。そこで、後継者となり地域を担う農業大学校生にとって将来役立つように、子牛生産の役目を終えた経産牛を肥育する技術を検討し、手ごろな価格で美味しく、併せて健康志向の消費者ニーズに対応できる牛肉生産に取り組んだ。

## 2 実施状況

### (1) 経産肥育牛の牛肉生産の実証試験

当農業大学校で経産肥育の牛肉生産を実施して、①体重の推移、②飼料摂取量、③枝肉成績、④生産コストについて調査した。

①および②の発育について、成雌牛であることから発育に要する要求量が必要なく、筋肉脂肪蓄積に向けられるため、無理のない飼料摂取量を維持し、期間中の1日増体も0.9 kgと良好であった。

③の枝肉成績について、経産肥育牛は通常肥育に比べると、枝肉重量、ロース芯面積およびバラ厚など、いわゆる肉量では劣る結果であった。また、脂肪交雑（BMS）についてはNo. 3であった。脂肪交雑は低かったが、食味等は特に問題なく概ね好評であった。

④の生産コストについて、肥育期間が短く、かつ濃厚飼料の摂取量が少ない分、通常肥育に比べて安くなった。飼料費などの経費が安い、その採算性などは詳細に考査する必要がある。

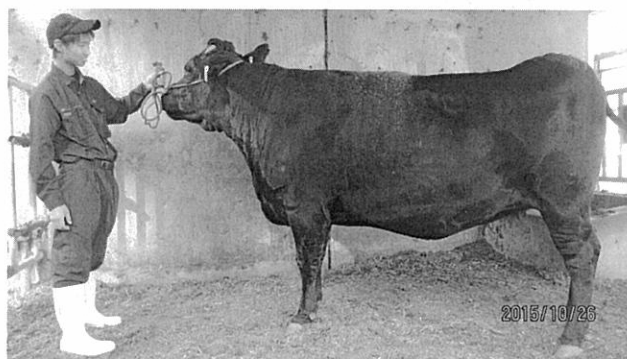


写真1. 出荷時の経産肥育牛

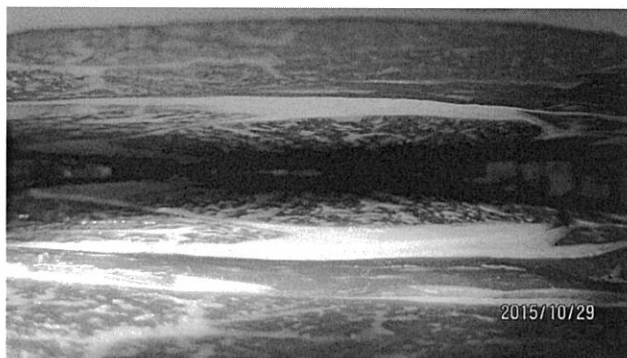


写真2. 経産肥育牛の第6～7肋骨間断面

### (2) 先進事例調査

農業大学校肉用牛科で経産牛肥育技術および省力管理等に取り組んでいる。そこで、奈良県および滋賀県において、肥育技術およびアシストスーツ先進事例調査を実施し、今後の取り組みの参考にした。事例調査により、学生は、今後需要が増すであろう安価な牛肉生産および省力管理を理解すると同時に、将来それに取り組む際の実践的なヒントが得られた。

### (3) 今後の課題、取り組み

課題としては、経産肥育牛における極力低コストな飼養管理技術の確立である。また、地域の特性を生かした販売方法も模索する必要がある。



写真3. アシストスーツ装着